

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
海田町立海田南小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	4	4	4	4	4	3	23	2	25

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数科	6	2	5	10	
理科	5	4	3	12	

授業時数 計 22 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 22 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A	A	推進	専科	専科	A	専科	A	専科	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	A	A	B	推進	専科	専科	B	専科	B	専科	B	B	B
6年 3組 (担任: C)	C	C	C	C	専科	専科	C	専科	C	専科	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: D)	G	G	D	D	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D
5年 2組 (担任: E)	F	F	E	E	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	E
5年 3組 (担任: F)	F	F	F	E	推進	専科	F	専科	F	F	F	F	F
5年 4組 (担任: G)	G	G	G	D	推進	専科	G	専科	G	G	G	G	G

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	33	A	6-2	国語	4	5	16	21
			6-2	書写	1			
6-2	34	B				0	11	11
6-3	33	C				0	21	21
5-1	28	D	5-4	算数	5	5	17.9	22.9
5-2	31	E	5-3	算数	5	5	17.9	22.9
5-3	31	F	5-2	国語	4	5	17.9	22.9
			5-2	書写	1			
5-4	30	G	5-1	国語	4	5	17.9	22.9
			5-1	書写	1			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ教科担任同士で授業の教材研究を行う。 ・児童のつまづきを共有し、授業での手立て・宿題や帯学習の内容に活かす。 ・教科の系統を意識し、他学年の教員と教材研究を行う。 ・自分の考えを深める対話・振り返りの研修 →研究授業の実施。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、学級経営の優れた教員の実践を共有することで、肯定的な児童理解の視点を深めることができた。 ・日常的に児童の努力や成長、課題を共有する。 ・共有した情報を児童や保護者に伝え、自己肯定感・自己効力感を高める。 ・ケース会議等を実施することで、指導内容を共有し、組織的な生徒指導を行う。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任間の授業交換の実施。 →5・6年 学年で国語・算数の交換 ・専科授業の充実。 (理科・音楽・家庭科・6年外国語) ・児童の実態を中学校教員と連携。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間で、教材等を共有している。 ・本年度だけでなく、以前の教材を活用している。



〈成果〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・理科専科と連携を図り、系統性を意識した授業を実施することで、単元末テストの正答率80%の児童1学期80%2学期81%(目標値80%)。多くの児童が理科の「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の力を付けることができています。 ・標準学力調査の結果では、どの教科も全国平均値を上回る(全国差)ことができた。 5年国語科69.1(+6.9)算数科69.1(+7.1)理科78.2(+12.8) 6年国語科73.1(+2.3)算数科76.5(+3.4)理科77.2(+11.2) ・学びを深める対話・振り返りの実践交流により、児童につけたい力を共有することができた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に児童のよさや成長・課題を共有することで、多面的な児童理解をすることができている。 ・学級担任間で授業交換することで、学年全体の児童理解が深まり、どの学級の児童にも同じように生徒指導をすることができている。 ・教科担任制に関わる全ての教員が、多面的な児童理解に繋がるとアンケートに回答している。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校から教科ごとに先生が代わることに對して、不安がなくなった」の項目において、肯定的な回答をしている児童が80.8%。複数の教員との授業により、中学校への円滑な接続ができていると考えられる。 ・複数の教員が授業を行うことで、児童が柔軟に学習方法を身に付けることができた。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教科の減少により、教材研究の時間の確保等、負担軽減につながると全教員が感じることができている。 ・時間の確保だけでなく、教科担当同士で連携することで負担軽減に繋がっている。

〈課題〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科において、思考力・判断力・表現力の観点の単元末テスト正答率80%以上の児童50%を目指していたが、1学期41%2学期45%と目標値まで到達ができなかった。しかし、児童の認知しやすい方法を考えたり、学びが深まる対話をとり入れたりすることで、少しずつ力が伸びていると感じている。 ・課題がある児童への補習が授業だけでは困難である。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導を行っているが、児童によっては効果的な取り組みになっていない児童もいる。 ・担任が移動することで、教室に教員が不在の時間ができ、生徒指導上の問題が起こる場合があった。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習内容を見据えた授業に課題がある。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等があり、時間割変更が多い期間での週案作成に時間がかかる。 ・教師によって態度が異なる児童がいる。



〈対策〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の認知しやすい方法(実物・操作・図・言葉・式)を複数準備する。 ・今後も、学びが深まる対話、自己の学びを振り返る時間を充実させていく。 ・授業だけでは定着が不十分な児童には、給食準備時間や休憩時間等を活用して補習を行った。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な生徒指導の取り組みを交流していく。 ・継続して組織的な生徒指導を行うことで、多面的な児童理解を深め、児童の自己肯定感や自己効力感の育成を目指す。 ・生徒指導上の問題を未然に防ぐために、連携を密に行ったり、複数の教員で対応をしたりした。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習内容も教材研究し、系統性のある授業の実施に努める。中学校を意識した授業を行うことで、児童の興味関心が高まるようにしていく。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制推進教員を中心に、計画的に週案を作成していくことで、担任の負担を軽減していく。 ・授業での学習規律を統一したり、どの授業でも大切なことを伝えたりする。